

十
九

和書門	
110464	類
四七八	函架
冊	四

和書	
110464	類
四七八	函架
冊	七

內閣文庫	
番號	和 20464
冊數	40(19)
函號	167 62

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 cm

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

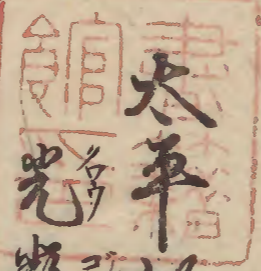
Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



太平記卷第十九目錄



光嚴院遷都の事

中納言車持の事

義興越前守の城を落すの事

法圓寺の蜂起の事

お探次房時行勅免の事

奥州の圓月宗家心并新田源義光と流の事

北く勝の功をひたし合戦の事

善野が承軍の事

付のうーやまの事

町田久成獻納之章

淺草文庫



りそらそ天^トと^トなりうじ^トP^トていあるるこ^トと^ト
昔^ト氏^ト心^トひく小^トら^トら^トら^トひ^トP^トされ^トを^トら^ト上^トあ^ト米^ト産^トの^ト
其^ト忍^ト辱^ト性^トの^トさ^トい^トよ^ト及^トび^ト寸^トを^ト以^ト拘^トめ^ト之^ト其^ト如^トく^トぬ^ト
用^ト令^ト乃^ト之^ト友^トら^ト也^トの^ト會^ト滴^ト裏^トの^ト初^トて^トそ^トら^トら^ト
拘^ト治^トを^トき^トら^トめ^トを^トあ^トく^トま^トじ^ト持^トめ^ト況^ト夜^トや^トく^ト大^ト果^ト報^ト
乃^ト人^トハ^ト其^トし^トせ^トら^トり^ト々^トり^ト軍^トの^ト一^ト方^トと^トを^トし^ト終^トり^トに^ト
あ^トく^ト拘^ト軍^トら^トり^ト王^ト位^ト減^ト給^トら^トる^トせ^ト終^トら^トり^トと^トP^トさ^トら^トる^ト
之^トを^トら^トり^トと^トた^トり^トけ^トき^ト

中^ト將^ト均^ト軍^ト務^ト任^ト先^ト身^トを^ト例^トあり^トる^ト

同^ト年^ト十^ト月^ト三^ト日^ト改^ト元^トを^トて^ト也^ト之^ト小^トら^トら^トる^トを^ト十^ト一^ト日^ト

六^ト日^トの^ト除^ト目^ト小^ト野^ト村^ト率^トお^トき^ト氏^ト心^ト上^ト首^ト一^ト人^トを^ト執^トと^ト
ら^ト井^ト正^ト三^ト位^トあ^トり^ト官^ト大^ト納^ト云^トら^トう^トり^トて^ト征^ト
夷^ト均^ト軍^ト乃^ト武^ト將^トよ^トそ^トあ^トり^ト終^トふ^ト令^ト才^ト友^トら^トる^ト顯^ト也^ト義^ト
初^トは^トる^ト六^ト人^トを^ト執^トて^ト佐^ト也^ト小^ト叙^トし^ト友^ト率^トお^トよ^トあ^トん^ト
ト^トて^ト日^ト中^ト乃^ト別^ト將^ト軍^トら^トり^ト終^トふ^トを^ト是^ト我^ト初^ト小^ト均^ト軍^ト
と^トを^トら^トま^トし^ト初^トを^ト武^ト將^ト也^ト年^トよ^ト多^ト治^ト比^トの^ト美^ト人^トと^ト
き^トり^ト神^ト意^ト之^ト年^ト小^ト菟^ト承^ト初^トは^トの^ト急^トと^トを^ト竟^ト意^ト十^ト一^ト年^ト
小^ト菟^ト承^ト初^トは^ト行^トく^トあ^トし^トを^ト後^ト時^ト代^トら^トり^ト小^ト海^トて^ト友^ト
承^ト初^トは^ト小^ト野^ト村^ト大^ト伴^ト宿^ト祿^トや^トり^ト持^ト紀^ト初^トは^ト右^ト佐^ト美^ト大^ト
伴^ト宿^ト祿^ト也^ト九^ト坂^ト上^ト宿^ト祿^ト田^ト村^ト也^ト文^ト屋^ト宿^ト祿^トと^トこ^トま^トり^ト

後原の氏は文右大將宗盛新中納言宗盛右大將
源頼朝本曾左馬頭源義仲後鳥羽の三つり家右大
将源朝長もよむるもそ人十六人皆切のゆゑに
小もそ父子を老成とふ事ありとしか先身一
時小おるゝて大樹乃事納よそありる事一右
今もその例とまらざることを言極の人と居るあり
以川の思ひ氣多よあつりまじりそおひのとの
一ぞくは十三人或いはあつりまじり小あつり
俗骨思小つりら乃事と少く或は乳階の志やう
まもそよう才立所よあつりくの月張が川あつり

のこゝろは乃事門業ありそののい徳國の守護吏勢
とつり報納りしつりけさうよ五る忽よ壘山
乃事よひらうりてらんせう来つらんすこそん
遙小ううい乃波よさかすすどくどくは
捕作乃は色是よ向く上佐張のぞまらん是張も
うつりせんや名が儒林のとえつりい技仁ふつり
るりてあつて小あらん事張らるこつり
新田義貞越後の府城と其門る事
右中納義貞乃は今身日記在源乃作義助も金
湯の城没落の故そ海山の少りくうりふがうり

國の領人^{シキ}が地^チ併^ヒ置^キ山^{ヤマ}原^{ハラ}新^ニ舊^コ上^ウ本^ホ平^{ヘイ}九^ク原^{ゲン}以^テ
下^カの^ノま^マの^ノた^タら^ラの^ノ六^{ロク}原^{ハチ}左^サ邊^ヘ射^シ野^ノ結^ツが^カく^クら^ラひ
よ^ヨ付^ツく^クか^カ環^{カン}越^エお^オ乃^ノさ^サう^ウひ^ヒり^リそ^ソろ^ロ本^ホの^ノさ^サよ^ヨ城^{シロ}郡^{クニ}
と^トの^ノま^マの^ノ津^ツ兼^{ケン}み^ミ原^{ハラ}が^ガ大^{ダイ}野^ノの^ノ城^{シロ}と^トせ^セあ^アは^ハり
て^テ幽^ウ中^{チュウ}と^トま^マう^ウ寸^{セン}比^ヒ野^ノと^トま^マ平^{ヘイ}泉^{セン}の^ノ原^{ハラ}は
ま^マか^カ二^ニ人^ニる^ル記^キ得^{トク}軍^{クン}方^{ホウ}少^{ショウ}く^クあ^アり^リあ^アり^リ是^シを^ヲり^リて^テ思^シ
ま^マん^{マン}と^ト引^ヒけ^ケく^クま^マ方^{ホウ}小^{ショウ}ふ^フか^カり^リ三^{サン}峯^{ホウ}の^ノり^リよ^ヨ不^フ
へ^ヘお^オお^オ城^{シロ}と^トり^リま^マり^リて^テ款^{クワン}と^ト約^{ヤク}あ^アり^リい^イま^マる^ルの^ノ治^チり
左^サ邊^ヘ射^シ野^ノは^ハ小^{ショウ}ら^ラう^ウて^テ三^{サン}百^{ヒャク}余^ヨ騎^キと^トま^マり^リて^テま^マせ^セ加^カり^リ
間^マを^ヲ過^ス乃^ハ地^チ原^{ハラ}は^ハ家^ケ人^ニ亦^モ防^{ボウ}う^ウの^ノふ^フよ^ヨ力^{リキ}と^トう^ウま^マり

て^テみ^ミお^オを^ヲの^ノま^マが^ガ家^ケこ^コよ^ヨ火^ヒと^トり^リけ^ケて^テ府^フ乃^ノ陣^{ジン}へ^ヘ落^{ラク}
あ^アり^リま^マり^リ水^{スイ}原^{ハラ}を^ヲり^リ動^{ドウ}亂^{ラン}して^シ汗^{アツ}子^シの^ノ足^{ソク}城^{シロ}也^{ナリ}
め^メ寸^{セン}三^{サン}峯^{ホウ}の^ノ原^{ハラ}流^{リウ}の中^{チュウ}り^リそ^ソぬ^ヌ山^{ヤマ}へ^ヘ使^シ者^{シャ}城^{シロ}と^トり^リ
大^{ダイ}乃^ノと^ト一^{イチ}人^ニ給^キく^ク合^カ戦^{セン}と^ト殺^{コロ}し^シ人^ニさ^サゆ^ユと^トり^リ間^マ
原^{ハラ}左^サ邊^ヘの^ノ佐^サ義^ギ助^{シュ}の^ノ佐^サと^トま^マり^リ三^{サン}百^{ヒャク}余^ヨ騎^キ城^{シロ}と^トり^リて^テ
三^{サン}原^{ハラ}乃^ノ汗^{アツ}へ^ヘさ^サう^ウ汗^{アツ}の^ノい^イさ^サう^ウ際^{サイ}使^シ又^{マタ}か^カ環^{カン}原^{ハラ}よ^ヨ本^ホ
と^ト前^{マエ}よ^ヨあ^アり^リ川^{カハ}と^ト定^サら^ラり^リ間^マを^ヲ地^チ上^{ジョウ}本^ホ山^{ヤマ}原^{ハラ}と^ト
城^{シロ}は^ハ原^{ハラ}乃^ノ汗^{アツ}乃^ノ汗^{アツ}の^ノ佐^サ義^ギ助^{シュ}の^ノ佐^サと^トま^マり^リ三^{サン}百^{ヒャク}余^ヨ騎^キ城^{シロ}と^トり^リて^テ
三^{サン}ヶ^ケ原^{ハラ}よ^ヨ城^{シロ}と^トり^リま^マり^リと^トせん^ンく^クよ^ヨ射^シへ^ヘを^ヲせ^セあ^ア

よせきんを流す高麗ハ六子余騎成去しゆ人々
府中ふそそ勢られよりきんが款は幽中をそ
とらきて一兩よありり居く之共頼小つまりと
はるふよりしりまうとて三子余騎とけらふよ騎
をまゝ三子余騎とけ一團小しけけりて山こ
峯ハ小城をりまう人共と二百騎三百騎成く城余
ヶ所水そとらまきん我陽書深くあくるの足此
くね箱ハ城と城と成合て盡取上書合我成
すくとたはるふ一日雄雄とわらそふ計まで滅
乃せりぶる未なかりたり去箱よあり玉の卒立

論く二月中旬ゆえるりきまは余勢を厚うやく
ありぞ紀て士率らとひくよまめぐまうぞ勢書
あつむ村さきて進る地と少びよひ川め成らう
世は今ハ財かよくるりね次身小府造へをつま
あて款乃日うるんはるるこハ城をりまう人ては
方とさうしあささそせめうめあうり川をう勢
害ふよりうるき所ありと見あちらん為小眼屋
右邊の城より百空ふ十騎までさくは川の岸ハお
かられたり名は小指まで城のかよ打おううと
よき原なりと款よや人の若うりきんを流す高麗

形勢軍河川が羽と又百餘騎ゆく府の城より亦
おさしは省へとてせ三方よりおを付て一人
えあまさうとぞぬまききり見れや右邊のあは
乃款よりこまれてとてえのぐまね承るりと思
切くけまは甲こんと一めしておえ機をとあま
さ守後陳小言本の社とあてた右よりふあせ
とあて矢種派申すまはあまきり村うせて款り
かえりつは城立うせと七八名が種あふ川ひく
きり通うそくせめ付うり小細川ひくさ五百
余騎は川への橋小け立られてさむはの省は

うーろるる河乃濃濃状打りうり向の屋へさう
と川法機上野女河野七帝態若彼中守伴東大和
次房是立新左邊の小橋越後守中野飯内左邊の凡
生次房左邊のさ八騎の共共河代濃しーらよ
打のをとけくさて後うんとくきりが大右邊
門作ると打よせてせいせうまきりい小橋の大
橋小川変いざんじのうーぎ也り一難取よ向
て款よりらむあ濃し利とうらひて款却て橋小
の予るー今日乃合戦を不意よあまつら奉るを
む意取乃は奇是とあうてた右うくとせまらん

と申すゆりぞいさるゝ在家より火をうけて合戦を
とらうせよと下知せしききりて藤隊も亦藤の
とせ回とさまうりふまうり水村の在家も亦火
雨より火をうけて稲畑天とこがせり雨に比ま
いきりりと思てすまやうし江の色も軍のあり
きりハとせ合く水方小口と合せよとて宇部
美濃均監頼茂と野原邦大捕政貞三百余騎ゆく
さうさるゝの宿より里よりせまうり一乗が均竹寛物
二百余騎ゆくわくはより里おらうりふ城前
ちまげし令身如雲あてうとみ百余騎よて妙法

ちの城より里よりせ下り山滝三百余騎も大塩の城
よりゆりあひ河橋左を越人あまねり三百余騎
あま三軍の城よりとせまうり大均左中均義貞
物左も亦余騎よて海山より里よりかられり合
戦のあひ川ありとせきて雨に比ま亦さるゝ江に
宿へともせわ川まうり由宇くままは未河もさるゝ
ひりりり水方うりすまるとて美濃も亦同件と
も三子余騎を率いて國分市の水へおらり亦
併おらりりり十余町中より一乃河流るゝ川に川
さうさるゝ大河もさるゝけるけまは打首書さるゝ小

切く申す三騎よま申ふせりら此新左邊門
と申すまけてよりより申す珠之三子余騎あせぐ
勝も三子余騎大助をのり申すも名と申す比原氏
一流のよりより申す也あうをるのりけりらあせ記
並下すまけ款此百六子余騎おぼた右小をふ所
り川入親守河守と申すあひあひあひあひあひあひ
と申すよりより申すあひあひあひあひあひあひあひ
よりより申すあひあひあひあひあひあひあひあひ
乃勝と大塩より下る山法師と申すよりより申す
のよりより申すあひあひあひあひあひあひあひあひ

及治与乃共三子余騎款次新善光寺の城へ入替
らせしと新中と申すよりより申す義貞新治の共三
子余騎ゆく子款次と申すよりより申すてと記まをるく
せめ入けり同城へと申すらんと申すけり入指左をの
がよりより申すあひあひあひあひあひあひあひあひ
入るよりより申すあひあひあひあひあひあひあひあひ
よりより申すあひあひあひあひあひあひあひあひ
て引をよりより申すあひあひあひあひあひあひあひあひ
打るて是羽乃城へと申すひよりより申すあひあひあひあひ
肘のよりより申すあひあひあひあひあひあひあひあひ

守乃ひて守りて款乞ふせさうらう記小園中比城
乃おのふ素小同樹よ七十三ヶ所あり
倉湯カガ表ヤトウ并均軍表此即くれの事
新田義貞義助を海山よりお出く為流吉併与
府中と知らそか所この城おとされねとぞくけ
まはる氏心直義助は人よりの事てはるハ備
小表コタマ表乃即建らと此うすけあらんうあよ金湯
あくはオハおいらう河切うりとの路ひし流滅こん
ゆくと海山へをそく討て滅うう下つらよとそ
なりは表オハ表是預南家滅ううかりんと思ふをうと

あうでり一兵なきまらは何故う一ぎの由ウケテ金乞
ありねと是ゆきこひそらよらんどもまのう
せくうらひまきとあひ東下ツチ總守氏光あぞ下知
せしれをら表表あ連枝の由先身均軍比表とて
直義助は先年福倉へりくごしまのうせうりし
先帝タイ才七の表と一雨よをうらあられく御座る
をら海へ氏光表と一はくまモツ持え来り川とま
らやうよ打勢ヒキ里く由座へて由病ビヤク氣るどのさざ
は由事をもゆりんすうんとて三条殿より由調テウ巻
せうきては毎約一七日中在りんとて由前マヘより

さうを言ふとつ氏光^{ホリミツ}がゆゑに後^{ノチ}の軍^{イクサ}のまは茶^{チヤ}が
境^{サカイ}をくまての路^{ミチ}ひきりい病^{ヤマイ}のいふ^{イハ}くさる
うに小^コのうとまうらと加^カ分^{ブン}種^{シュ}は親^{オヤ}水^{ミヅ}が田^タり
は一^{ヒト}家^カの中^{ナカ}よをうらめて約^{ヤク}書^{ショ}と因^{イン}り
やもるまめてやまひ代^{トク}治^チする茶^{チヤ}はあはく
命^{イノチ}とあはくひらうとくさるうとして海^{ウミ}へ打^ウて
とせさ世^セ治^チひきりと表^{ウラ}文^{ブン}はふとせ治^チひ
初^{ハジメ}め氏^{ウヂ}直^{チキ}義^ギ本^{ホン}をれ種^{タネ}小^コ情^{ナリ}なき所^{トコロ}存^{ゾク}成^{セイ}う
ひ若^{ワカ}あはくはあはくひびくまらとまらたのが
る命^{イノチ}のしも元^{ゲン}来^{ライ}所^{トコロ}成^{セイ}なりはとく成^{セイ}の

世^セとしやあせもやとそ存^{ゾク}作^{サク}人^{ヒト}間^マの
一^{ヒト}日^{ニチ}一^{ヒト}夜^ヤ梅^{ウメ}の旨^{シメ}は八^{ヤチ}億^億の念^{ネン}あり一^{ヒト}念^{ネン}思^シ
成^{セイ}をせむ一^{ヒト}生^{シヤウ}の思^シは念^{ネン}ありと念^{ネン}あはくは
十^{ジュウ}生^{シヤウ}思^シ成^{セイ}うくまいし念^{ネン}の思^シは念^{ネン}又^{マタ}あり也
とりつりめは一日^{イチニチ}の念^{ネン}念^{ネン}の報^{ホウ}更^{マシ}あらん事^{コト}一^{ヒト}粒^{リツ}
うううううう一^{ヒト}生^{シヤウ}の思^シは念^{ネン}とや思^シううう
東^{ミナト}来^{ライ}所^{トコロ}の生^{シヤウ}死^シも誰^{タレ}の思^シは念^{ネン}の思^シは念^{ネン}
人^{ヒト}ふをひくはば昔^{コト}のうまといはんや我^{ワガ}水^{ミヅ}勢^{セイ}
の思^シは念^{ネン}の思^シは念^{ネン}の水^{ミヅ}とまといはんや我^{ワガ}水^{ミヅ}
思^シは念^{ネン}の思^シは念^{ネン}の思^シは念^{ネン}の思^シは念^{ネン}の思^シは念^{ネン}

る記月日と送て日乃つそらとをあらはれ念ふ
なりさまんよりも命とらんしくはあふそ
めく授せ普商の重きと送らんよけふと
られて毎日法華經一巻あそんふれ福んぶつと
あへさせ給ひくばらんしくも守るきん約軍
乃まきと使境して推してを町らうき世よん
とくびるさよあう守同をなせとえは供中さん
しそ中素るまことそをらた小いどくやくと七日
迄ぞやるげの厚くそを文あを翌日よりゆん地
樹ふうりせ給ひけらうがゆあうえんの俄三月

ふあくと四月十三日の書種よ惣よ町のまきうせ
給きり約軍乃まい女目能と座をきうがまう
どんとりよゆりこりりあまきゆ編かき小い
給ひくをえはあふらうくうせ給ひ小きり
あふれうらうら戸鳩樹影乃花まんしとやく一
約乃面よまふひかあ一きおせさいまい原上の葉
同根息一三秋の霜よれわらうらと去く年あ
共約心親王極念よてうかりまきうせ給ひ又去
年乃去い中勢心親王全勝よてゆ自害ありげ爲
然しとらあうあまきる事一ふやんふと

りいさしめつらよ今又表まわ軍のまゆくわく
まくて由かられありきれもふありえんあきま
乞とするふ人しふあもま成りもかふ守と云
ますしわくつろくあより給るる並義約はれれ
米りあふんと思われ人毛なりけりつらさ
してどくういせしき給ふましそあしきるま

法園ま方蜂起の事

直上山門より還軍なり宿軍倉が勝りて皆討ま
ねと持露ありままは今二つひ倉殿小排せん
案しをさ世まはあしと世あそりて思定ま

敵小芝帯又三槍の津無成あひまて右野へ潜幸
るり又義貞約はとぞ小教義務の軍務と率あく
敵前國よ打かつりとすくまは山門より降素
あつりしたつら乃たる物成の件と國へあげ下
出居の給が子たと引合ては國成討ましぐ人び
と守江田兵部大將行義も丹波國小とせまくと足
立中左馬とわしいらひて高山とよそこまら
倉若治了大捕理成播磨乃東条より打かきり河
宮田う筋成付てあふり山陰は城跡をのまへ山
陰の甲乃成さしあきぐまの井ぬい州法院の

夫ととりよせてまひらせし奥乃山ふそしを
宇初文治戸大捕入乃ハ北清安黨五百余誘致率
して若野へもせ集けまはつ切派控さうらう
と君御ノ敷感らて別毛と還俗せさせられは佐
か得よそあされきらばか口夷ハ驚く可
ふりをそふとのこやうまうは先帝さうらう此
切片義貞おんこの軍務ハ高崔花城らよて飛揚
乃つむさ城のべてらうまよ面とめてきんくの口
むらさうらかすくうらうしひ思ハね人えり

お控治々時新勅免のり

先亡お控入るをうらんが次男お控治尙時行
一家忽と月らびし殿ハ天よせくぐまり地り
ぬきわくあく一ガ城とくよやときあるうりし
かもあくの様院のこの様院ハ一教二教とめ
あくやくまありきまうがひそく小使と若野
とのへまのうせく入きうあ亡親高時法師
うら乃とりさまへすあくはわよ滅亡と勅勅の
下よゆありき然とく天誅の理よわいふおと
存ふよして時行一巻を若とうら見Pあを存い
りんえ弘り義貞ハ開来とわらり若氏ハ六

らうとせめおとすばあ人のびんまも初命小うそ
征討とるしとくしに開りさど後りと云成小志
まひしお小志成思小約款とるりあうけ感と備
命のト小切りく世成りんさやくの申しようん
りんと金けりん中るしとて小志成しひり作さ
成がと人あるるしひと小商家ゆうあよのり
おんよう思ひさおん小志と小うひて思と忘れ
天とて記て天成そむきりそ大送成るの甚さ
事一世乃おくび所人のゆびさすありらう成
りて商家乃成類小志款と他よとくとも成る成

正義おがうあよそうらみとあせん事一成存と
天しんめいよ下情とてうされむまげて初志と
あく約款條類の計略とめぐるそ人さ由論首成
さうらうされこらうと名軍の義戦とてうけ
まうとうの大地と成るさあくひそれ不義
乃又と條とて思切の子と成仕りくまひ
あり英國よ成遊者我初め義約をからんく
あうらうひあげとかそふとて守用控備さくち
あうあうあわあ王の士とえらふ成也置さじう
乃成とてあ然の成とてせられらんやと傳説

よきよくよくあつたおのれを裁すあつりきつる止上能
こや右て梓半のきし人そ理あり也野を修む小
あつり裁き切よらんきつる善政のしめあり
とて別れんめんの編首とぞ下されきつ
奥列乃奥列の御家心并新田酒造丸と洛の事
奥列の團司水島源中納言殿家心去え弘三年正
月一圍城と合戦乃向と洛せしき義貞と力と
加へて氏心と酒造とあつりせしと双の大切
ありとて鐵の御家の御軍よるされと又奥列へそ
下されけしと翌年官軍よるひ原ぶきて悉い山

門より還幸するにて花山院の故まよゆりるいせ
られとせ洛の合戦乃城とせめ邦とされて義貞
約に自裁ありとせしむに義貞心よ付あり
つふ帝位みおちらうせと珠びりるりあり
月よふとて乃那具山の城一とありて省える紀
かしくとてぞ城とせしむる病よまよい若
野へ潛入する義貞も水國へ打おつりと披露
きんてい月しと又人乃んきんきんきんそくふ
あつり人多入りたり殿家心時城とありとよあ
しひて回文をまてむんぎの案とりよかざる

あな戸首士河小海さか奉一はよをありて款小
之後これねえ記よひありてまゝとてまゝとて
けて戦せまのしらん小るうりしてひるさ
りきまの國身合戦の及い勇士は何すよまのど
とえりくもまらふる一とぞの終ひをん冥永
大小ふらふひてまのうりびとゆめあがこれ
をまめて海とんとお立まると思てり川も軍
のさ記とゆゑもひまらへ井十郎高本三郎おえ
前後を思はくろり只二騎高城と門とお入
今日乃軍のさきつけ板小備とら人ありて河他

あつ小向くと人と高登よまをりてのさめ形
一は流まをせきてぞ海しきう長井敵宿別當令才
是板治う先勇二人是とて人のまゝしうり敵
と後まゝる何乃高名りありてまゝとて小まゝ
まゝくまゝより三町計上るる瀬と只二騎海げり
岩波高まゝとまゝとまゝとて入られてる人た
小忍くすあの際小志門とてうせ小まゝをまゝ
流よあがまてゆぐりハ急流のそと小まゝとまゝ
くりたを名のあくとまゝとてまゝとて九郎の先よ
ゆかたとまゝとまゝとまゝとて河死せり

さし置が米とけきとて萬人感ぜしとて
乃下よ先祖の名とそあけありけり
別乃勝下百餘騎一なるお入くま
せは極愈防八百餘騎同時は後合
負とを月せん寸は速た一
邦く防の入るよ東岸の流せり
さやさるのあいう防門三
極愈乃先凍三子余騎るり
てうきね志月とね流を初
とてつなりととも思まん
野よさうてうめひ
よりさよりよりけち
國司と祿川の合戦は打勝
強大小うとりは極愈
乃府よみけ目選毎
うひア活ひきん
紀清あ子余騎ゆく
が子息か後考れと
大つとて

野よさうてうめひ
よりさよりよりけち
國司と祿川の合戦は打勝
強大小うとりは極愈
乃府よみけ目選毎
うひア活ひきん
紀清あ子余騎ゆく
が子息か後考れと
大つとて

機よして勢子乞よして國司とてあつたのぶの共二
万余騎破さうしちんく宇都文の城とせめらるる
小澤可三日が甲よせめめとされと降氣あつたり
きんが三日と経て候又均軍あよぞとせつと
きんが三日と経て候又均軍あよぞとせつと
右野ありと勅免とあつとて伊豆國より里せ
里とてあつとて勢子乞よして國司とてあつたのぶの共二
左中均義貞の次男酒巻丸上野國よりおつたりて
二万余騎破さうしちんく宇都文の城とせめらるる

はけ國司の合戦り一とて自余の勝と約と
あつとて勢子乞よして國司とてあつたのぶの共二
よけ上牧民部大吏同中務大輔志との三郎桃井
播磨守高太和守以下ひひの一勝大名家下人
大内足利丸高頼よりあつとて伊豆國より里せ
ありきんが三日と経て候又均軍あよぞとせつと
さひて大内足利丸高頼よりあつとて伊豆國より里せ
坊小なりはれ今いこうとてさかたつとて
ぬがさしあ房上総へ引ちりぞれと東八ヶ國
乃機り方へつ付とて候のるんいふとて

軍のあはれともしりてよめよるさしとのびく
とある評定のころそで減よせしとぞきつら
義務の更よなりきり

奥務の政をひ乃こ合戦の事

大物たる彌夜はそは月がふ十一歳也いし思
あまへき程ゆくもゆしせけりあながはく
とび評定とす法ひて物乞ある面この奥にたき
ね事一なる軍とせし程ゆくち一方まけねる
あつたすそざり小母をれと軍とせぬあま
こそ河らめりやとせしあきら東國の獲候

とて海く種念よありあつた款大勝なまは
とそ家ゆく一軍とせけりんは段の難のづまが
たぐあく款のあさびかんるむあ然也こまは
あまひ西方小物なりとて款よせ系らけしせ向
てつらん小なるりは討死とんしあ又のが
れはへくそ一方おぬづりてあ府上總の方へも
引ありそまきく款のうらあよあさうひてよ海し
き治務あまておぬよりせめうらんよるとり款
せやあがさばると謀こまやう小養ふあつり
ての終ひをねし勇ね極率ひくこの一言小

とけまされてさそふ討死せりなりか乃て
と一備は思ひ切く鎌倉中よりて勢子を指一
余騎は後道より入り是城守と圍目新田源
お控はく時新守が末紀清西黨の連西連助合十
万余騎十二月廿八日法方留際し合て鎌倉へ
とぞあよりをる鎌倉は款乃板と守くとてを
うりるき軍をく寸と一編は皆思ひ切よりをれ
と城と切くくし城は深きより謀とを交とせは
一万余騎は法方よりけて乃てはおあひり合
く一日うて者方命と申すも寸とあひきり

種より一方乃て大將より向りまきくろ志との三府板下
とてうこれよきねては保より軍陣よきてあは
若こよ起入よりせよ之方とくし思ては方一處よ
あ開りまはれうとあく志はあひくあく戦兵は
すくあし切くては始終のあふる一は思く所り
まねて大將たる頼房と具足し其て高上松根井
以下乃人の皆思く小隊とぞあられをりりし
校も東國乃防文方よあはひ付交雲霧のし
今も鎌倉よ遠るあく何乃用のあはくして國司
歌家以下正月八日あはくくとましく款と目小

此のそと流し給へども世に初合ふ十萬騎あり
又日給左右に又里をなして通りよ之を^ミびざん
ひきの乃^ミあひすた^ミな^ミは^ミ流^ミの^ミ民^ミを^ミ流^ミい^ミく
し^ミ社^ミが^ミ川^ミの^ミく^ミと^ミ焼^ミも^ミぬ^ミあ^ミく^ミは^ミ指^ミの^ミお^ミる
き^ミの^ミ流^ミと^ミも^ミひ^ミく^ミ流^ミ乃^ミ二^ミ三^ミ里^ミの^ミ男^ミゆ^ミは^ミ並^ミ家
乃^ミ一^ミ字^ミ之^ミ流^ミら^ミす^ミ東^ミ本^ミの^ミ一^ミ本^ミを^ミな^ミり^ミたり^ミ之^ミ流
と^ミぞ^ミ小^ミ流^ミ乃^ミの^ミ川^ミ田^ミ小^ミつ^ミと^ミを^ミま^ミは^ミ攝^ミ津^ミ大^ミ交^ミ目^ミ
入^ミ道^ミ源^ミ雄^ミ二^ミ百^ミ余^ミ騎^ミゆ^ミく^ミと^ミせ^ミ付^ミ同^ミ日^ミ美^ミ濃^ミの^ミ根^ミ乃^ミ
酒^ミ山^ミと^ミ里^ミ坂^ミは^ミ美^ミ濃^ミと^ミ負^ミ満^ミ子^ミ余^ミ騎^ミゆ^ミく^ミと^ミせ^ミ加^ミる
今^ミハ^ミ是^ミより^ミ東^ミ迄^ミ乃^ミ乃^ミ誰^ミあり^ミた^ミは^ミ勝^ミと^ミい^ミう^ミら

之^ミう^ミ人^ミび^ミと^ミも^ミら^ミ老^ミハ^ミあり^ミう^ミう^ミと^ミぞ^ミ忍^ミく^ミより
あり^ミ善^ミ小^ミ極^ミ念^ミの^ミ軍^ミは^ミ打^ミま^ミけて^ミ方^ミこ^ミへ^ミ移^ミら^ミれ
より^ミあり^ミ上^ミ秋^ミ氏^ミ約^ミ大^ミ捕^ミ令^ミ才^ミ交^ミ同^ミが^ミ指^ミハ^ミお^ミ控^ミ國
より^ミお^ミり^ミ批^ミ井^ミ攝^ミ摩^ミと^ミ並^ミ常^ミハ^ミと^ミ祿^ミより^ミお^ミお
る^ミ流^ミ河^ミち^ミハ^ミあ^ミ房^ミ上^ミ總^ミより^ミ極^ミ念^ミへ^ミと^ミ流^ミり^ミ武^ミ藏
お^ミ控^ミ乃^ミ指^ミと^ミり^ミも^ミな^ミら^ミう^ミく^ミ小^ミ所^ミ存^ミる^ミて^ミ國^ミ司^ミの^ミ方
へ^ミ去^ミ付^ミより^ミ流^ミ乃^ミの^ミ戸^ミり^ミと^ミい^ミ三^ミ浦^ミ極^ミ念^ミ坂^ミ東^ミの^ミハ
平^ミ氏^ミ武^ミ藏^ミ乃^ミ七^ミ黨^ミ二^ミ萬^ミ余^ミ騎^ミゆ^ミく^ミと^ミせ^ミ東^ミ子^ミ又^ミ流^ミ此
黨^ミと^ミり^ミ頼^ミく^ミが^ミの^ミ長^ミ流^ミ入^ミ道^ミ源^ミ可^ミ也^ミ元^ミ東^ミ均^ミ軍^ミ者^ミよ
と^ミう^ミう^ミと^ミを^ミま^ミは^ミ流^ミ乃^ミの^ミ國^ミ司^ミは^ミあ^ミり^ミく^ミして

ふ流しつる時ハ虚病して國よと海軍よりきり
が流のさう子余騎汰率あくとせ加りつるは務又
み万余騎國司の初とをひて先陣とてふき江！
はけむそ國乃ち護今川み命入る二子余騎して
とせ加りつる中一日わりて参河國ふつけと高野
乃ち護高野流と六子余騎してとせ加り又高野
の寸のまゝへはけしと高野正が騎勢を七百余
騎少くとせ加りつる國司乃勝六十万騎あを懸て
わ軍と討ちとんとふ流とまはき上校とて代わ
が勝ハ八万余騎國司破うとんと初と付てゆく

ううらうとせととうへし野きたうらうと破うら
うふとりふさうしう人國世のきと人をふえと
思ひあられきり
善野が京軍乃ち付のうらとわとていとのま
坂中よりうらとせめの勝高野國ふ所きて勝
定まきうらと軍と定て高野防の橋破りては
さへあらんすらんうらと種あうけ國司は勝河と
流しつるは流小日破送るしと時此方の勝らふ
るはの流のえよのりて國司の勝とおぼりせ
めん小日破破らふらと破りてとてあをき

きんを^ト出^キ波^{コリ}新^{トシ}をりく移んとして再^シ成^シくいあけ
きんが物目のおと打^ト通^トる款と大^ト務^トなまはして
矢の一川とを村^トでして^イ後^トは^シ日^トの^イ所^トい^ハえよの
らん事とまらびるハ^ハ兵^ト我^トの^トり^カさ^リかを
ころすまはまるといすとりひしよ^ハ似^トあ^ルべ
して^ト下^トの^ト人^トは^ハ只^ト一^ト舉^トふ^ル人^トし^ハだ^ンに^ハる^ハ所^ト自^ト
余^トの^ト出^ルる^ハま^ハく^ハ兵^ト新^トを^トひ^クい^ハ命^ト成^トさ^スも
乃^ハ一^ト合^ト我^トま^ハく^ハ殺^トよ^クせ^ルる^ハむ^ハ子^トを^ト九^ト原^トの^ト若^ト
小^トと^ハび^トア^トと^ハ又^ト余^ト成^トえ^ルる^ハく^ハ甲^トさ^レれ^キま^ハけ^ル批^ト
井^ト播^ト磨^トも^ハ某^トも^ハめ^ハば^ハ存^ト以^ト面^トこ^ハい^ハり^ハふ^トと^ハ甲^トさ^レれ^ハけ

また^ハ法^ト大^トね^ハま^ハか^ハ權^ト小^ト少^トく^ハして^ハ某^トは^ハ殺^トめ^ハれ^ルも^ハ同^トし
きんを^ト新^ト小^ト奥^ト務^ト乃^ハ先^ト陣^トに^ハぞ^ハふ^トう^ハ井^ト赤^ト坂^トの^ト邊
よつさ^ハう^ハり^ハき^ハん^ハが^ハ故^トより^ハ是^トの^ト形^トう^ハう^ハら^ハせ^ハめ^ハれ
物を^ト付^トわ^トと^ハや^ハく^ハけ^ハま^ハれ^ハ先^トを^ト款^ト城^トに^ハ治^トせ^ハよ^トと^ハて
又^ハ三^ト里^ト引^トわ^ハして^ハ美^ト濃^トを^ト治^トめ^ハ國^トの^ト間^トは^ハ凍^ト城^トと^ハく
す^ハと^ハり^ハふ^ハ所^トう^ハう^ハら^ハせ^ハめ^ハの^ト防^トハ^ハ八^ト百^ト余^ト騎^ト城
お^ハよ^ハ小^ト且^トけ^ハ前^ト夜^トと^ハく^ハ小^ト庭^トあり^ハき^ハれ^ハも^ハ一^ト番
よ^ハ小^ト庭^ト取^ト信^ト濃^トさ^ハん^ハが^ハの^ト信^ト兵^ト入^ト道^ト程^ト可^ト二^トふ^ト余
騎^ト中^トく^ハ志^トき^ハ乃^ト海^トへ^ハと^ハせ^ハび^ハふ^ハ奥^ト務^トの^トど^ハて^ハ志^トの^トぶ
乃^ハ共^トた^ハ三^トふ^ト余^ト騎^トして^ハ河^ト城^ト海^トく^ハと^ハ里^トき^ハん^ハよ^ハし^ハが

小笠原勢と小川三浦とに決すくさふううれ
小川二軍は高木和守之子余騎ゆくすのまゝ
河と渡ふ所小治もをてすお控次第時新み子
余騎ゆく礼合はひよのさあるとあるべし
くきて落城ちのさありてらびひとより軍計我
より大和守が頼切より共三百余人うへまき
けまは来為よあうけて山と使小引ありぞく三
番は今川又舟入乃三浦新めあし小打ゆく獲
あひ小引く取城南郡しを山渡城入乃一万余騎
まてうけ合火出る籠よりあふより今川三浦え

本少勢をまき打まけて河より東へ引ありぞく
巨嶽は上杉氏勢大浦同ま肉が捕成は上野の勢
一万余騎と率よく青野が原は打おあり言は
新田徳秀丸宇都宮の紀清は黨三万余騎とて相
ひよ西討乃もこのまん話ありうう共たるまは
は乃あさくりともやうらうりきんだひよ一足を
ひらき余とまはふおうの前ひらんたきて大地
勢小びきんらくよおち水端に記て世果悉ら頂
天小ひかぬ里ぬるんまうくやとあがゆり計也
所是は天敵ぬひぐ小引くけまは上杉はあし

ねらわれれて防もつき氣もくらしきれし七百
余騎の勝りし小女三騎は打るされし記に在り
目下より右のけりさるるまきらるる記に在り切
つけられて長森の城へ引こころえくの井も妙
余ヶ方のつけ合ふ七十六騎よりりるるたるれ
三河平らひ二右日さるれまどりのまらまき三所
つらまきとあまらひ小敵たつまきしは軍にまき小
かまらまらりりさや人の足履とめんとの
まの河よると遊ひくして右日長力のちとめりひ
て目えくらまき野より右てはぬ小河より東

へ去城路の東初より奥防と路のゆえにまき
すくまきりし記に在り記にまきりし記に
さへびするとたりく思ひまきりし記に
まきりし記にまきりし記にまきりし記に
たすく又いいうまきりし記にまきりし記に
乃まきりし記にまきりし記にまきりし記に
引てやおまらひ路らすか先西國の方へひきまきり
まきりし記にまきりし記にまきりし記に
つまきりし記にまきりし記にまきりし記に
右せまらりけりし記にまきりし記にまきりし記に

ふれをりも右より今より取らるるに款のせあり
時宇治河多の橋渡りてけりあり交り也然
は河ゆく款渡りておと井とされすくりも
ありもすり者ハひらく方園と四方あり感
のりありせぐえのさ月、小治平と後成りく氣を
うるふお也不吉の例渡りておかけりく宇治河
あり橋をひき大款渡りての意ありあり
より重なる兵隊の利は付て急ぎをい義徳意よとせ
向ひ戦と王敵乃お小き月せんよりありじとい
ありも氣よありりも深を理よりありひてりせん

をれむ均軍も師泰をい我然りともせん
せり連をりうり月判とありありへとも大
將軍より言戦後言師泰同播磨言師冬河判了
大捕物言作之本大吏判及氏判同佐後判官入道
道養子息をい言秀總はか法園の大名五十三人
初合を功一万余騎二月廿日初とあり同六日
お且よをいと義徳との境るり黒地河より
たり真機もより井赤坂よりありあり
寄小てお約るりとも前より関の菟川渡りて
うりあり黒地河渡りてありあり小陣とぞあり

きりきり柝石も重と小島も重と勇士ユラシ楯持シヅメの隊と
おと款カウ隊約ツまのうらま山よもりおハあをさ
ふ事してこそわのふ今大河とうらまアあて
陣ツ張ツとこれきり事ハ又一の共ニマウカウ法ツるるる一着
漢カウ乃ツ祖ツと楚ツのうううとと下とあうそふる
八ヶ年が圓うのふるやまよりあはし我時高
祖軍小まけてあぐふるや城ツ置ツ討ツ滅ツされあふ共
とくもつよ三子余騎もうらむりきりかう
何十余騎とまて気張とひげらがそ目とぞふ
くれねおぬ漢乃陣ハをうまてさ祖と一時

上りろりきんるやせにあゆの肉小あつとぞい
何もきり家小言祖の長小のんあんとりひきり
矢と大乃ようて陣張とくせきりふうん志ん
悠ツうらま大河張あて橋と懸きあう一舟と
おりりてそとそとりきりきりきりきりきり
あきとあありて士率一引をひくふなく皆討死
せよとああうんの隊也殺ぬけまけううは
共言十百騎してをうせ款隊小隊なりとあな
とりて戦隊ツ討ツ時ツとを川せんと寸を防さんせん
として左右とうり及及の重きりとうん志ん

り共三子余騎一足走ひ加と死を河くそひて我
くろ程よくうう忽キヤク小討まけてうさあ共廿可
人ゆくおとをふ事一六十余里也スミ河とさうひナラ
とヘカテ備てこく色い款ふをのるゆゆじと橋と列
てぞおりきく漢の共う月小のりて今教屋うく
ううう乃河へよせんともきんようん共た
とあ月めてPをういよ建思ふ振あり汝ナデラ亦うか
之月雨の共振と推ステくそくろよりさごを入て
持るうとぞ下知馬きう共皆ゆぬねるゆりなと
思ひるうう大物の命小ニカク得と士率皆持取モツトコロの振と

推くそくろるよりさご城へまうううが陣へそ
とくよせうり勢小入てかりうが河の振とさう
よ河皆流スミ流さうひナラ河と備てるの足之あくと
備るる振る紀雨小ぞ河おうりきんひ時り
うんあん持さう雨乃りさごのうくろ城うもよ
るけ入く色と境マミふるしてそ上流流ふよ志ん
てい文よ平地乃いううの共廿騎終日モス
乃軍よ月つうまね食色い款ふ守るる乃なりと
油ユダ動あくとおひひもと記て録さうあよ高祖の共
七子余騎河とさうと他ツクとととよせをい一戦セン

ゆえ及び守りうの兵十万余騎居河あり其
まてうへまふきり毛と名付くゆんぐのう
しやういせいの謀とけりなり今まの屋と河を
新妻が款と大防ありとて然水澤とうらよ
りて關の谷川小川ととりきり毛守士率此
と一ゆて二さびくんしんが謀とあめをうの
るるるし去程小國司の勝十万余り并赤坂書
野が原と先海一と東為六里南水三里小ちんと
より新このうと見後せは一天の星斗あちて
らんらんらんよしくなす守は河越ふ國小新田

義貞義助小湊道とあさこの人て天とめづし地
と越ゆるりきりひきりも里也奥勝り黒地の
凍とらん事一難儀ありは水をばより越前
へうり越て義貞の片と一月より比敷山り
らりのかり海中と御下よ見おろして南方の家
軍と際し合せ東為より是毛沢せめり均軍於中
一日えらんゆん志結りしと急ぎしと新妻に我
大切義貞乃志よるらんせりしとそのひきて水
國へも川合寸墨地とを越ざりえは織小士率と
引く伊勢より若野へをまわりてまぐるうてしそ

うまけを勝んんのいしくゆく八摺山の下
方一尺地を譲らすうりくありはまた新害の
場さひあく志て極率意らう一城同あくとて勢
うりるるまはれうせは毎あうあひ小利城う
あふとやうあうけまくのわん舟の人、我方を
うりり思て今なるさういそくあを意せは初小洲
とくまうまありきうが富家氏譲とあし大旅軍
共とせしすしつ(夜合戦)利とうあふとやうて余水
まけりてうてゐるさ志ゆ川うあひ私るうら共
乃乃ハ云衆の衆のがまねあうりとしてひそく小

物と打ちく(水勝)計城(率)し(水)方の大勝(水)を際
し(合)せ(夜)自(山)下(よ)を(一)日(一)戦(せ)あ(あ)く
う(ふ)気(ま)ど(夜)軍(も)そ(と)く(う)う(ま)さ(さ)ず(と)あ(あ)り
き(り)並(伝)並(常)乃(共)在(城)す(く)る(小)あ(お)ひ(う)う(れ)
て(水)方(乃)所(八)寸(加)り(う)は(比)の(末)ら(う)ん(ぐ)が(批)
井(堀)と(名)付(あ)る(を)先(身)合(戦)の(在)あ(る)り(を)城(始)
と(一)く(う)り(と)う(強)河(も)太(平)孫(を)と(和)田(を)河(を)
自(う)か(ひ)て(さ)寸(城)加(う)り(あり)殺(害)の(あ)意(城)討(せ)
日(報)上(書)お(う)り(小)あ(ら)ん(あ)小(批)並(師)並(水)く(代)軍
兵(と)ま(の)さ(あ)り(め)和(泉)の(さ)う(ひ)河(内)を(故)款(國)

なまはらうでぐふきうくそん病は強款を呼よ
たうりわまは和用捕えりと合も人し未ひるり
よのりて子連よ正治も人しとして八幡ゆは太務
とさうひげと款のおとりてねねよ官方とさし
め師並い天玉さつぞ向りまきん歌家心の宿軍
をけりまきとあうを少勢もまはか余次控てさう人
うのふと少は軍利さくして法率あまよなりし
うはあさり急の心立是えさく歳活ひく若野へ
系らんごらごうし月ふ少余騎して大款の切と
とといでんと自利と敵より味とくさき強よと

りたを戦切はゆして六月廿二日和泉のさうひ
あ人野して討死志強ひままはねあうふ共忠後
きりさ守と敵く一人も流らさうせよきり歌家
心とけ成強固うおの心命在處討討事りさう
む首とけ丹後國の信人成者太末を政清あまは
あまふさうら刀もを強あうりままは師並と
突搦してうさうふ所なりさうはゆ志やう所感
の心書成あ人少と下されきらあまをさうり
歌家心の武略智謀もあふさうと少はを双の
勇れ小あまと強さ府均軍小あ人じ奥列の大軍と

あかほおろしてきつと九列の巻隠小遊下し
素のきんきん紙あふよくやまめまられしそが
まれば下の宿業よふ記きくあふそふとまめわ
なうりしは電運天ふりなつは成酒刑取りねる
そいつままやあこうの巻隠あふく戦場セニチヤの巻
乃露とらうとけひーくま南朝の侍は名軍之巻を
やてかどとらうひまの

太平記巻第十九

あかほおろしてきつと九列の巻隠小遊下し
素のきんきん紙あふよくやまめまられしそが
まれば下の宿業よふ記きくあふそふとまめわ
なうりしは電運天ふりなつは成酒刑取りねる
そいつままやあこうの巻隠あふく戦場セニチヤの巻
乃露とらうとけひーくま南朝の侍は名軍之巻を
やてかどとらうひまの

